

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



張家口市蔚県での第1回目のワーキングツアーがおこなわれた。柏樹郷永寧寨村でアブラマツを植える

Contents

- 緑の地球ネットワーク第23回総会のご案内 P 2
- 2017年春 張家口市蔚県で第1回目の植樹活動 P 4～5
- 2017 黄土高原スタディツアー参加者募集 P 5
- 大同緑化協力25年の軌跡 P 6

2017.5
175

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

認定 NPO 法人緑の地球ネットワーク 第 23 回総会のお知らせ

緑の地球ネットワークは 2016 年度より張家口市蔚県での協力をスタートしました。今春に派遣した第 1 回目のスタディツアーは 26 名が参加し、蔚県での活動は順調なスタートを切ることができました。今年度はさらに飛躍の年になるよう取り組んでいきます。

山西省大同市との関係は新たに植樹をすることはありますが、今後も協力関係を継続し、ツアーの際に大同を訪問し、代表的なプロジェクトを見学したりなど旧交を深めていきます。

国内でも東日本大震災の津波被災地

の海岸林再生、自然と親しむ会、関東ランチと、今後も充実をはかってきたいと思います。

年に一度の総会、会員みなさんと今後の GEN の活動についておおいに意見交換をしたいと思いますので、ぜひご参加ください。記念講演では 4 月に蔚県を訪問した上田信さんに蔚県の魅力を語っていただきます。

会員みなさんには後日資料をお送りします。

【緑の地球ネットワーク第 23 回総会】
○日時：2017 年 6 月 17 日（土）13 時

- 30 分～16 時 40 分
○会場：大阪産業創造館（大阪市中央区本町 1-4-5 tel.06-6264-9911 地下鉄堺筋線・中央線「堺筋本町」駅下車徒歩約 5 分）
○記念講演：13 時 30 分～15 時
○講師：上田信さん（GEN 世話人・立教大学教授）『蔚 県 今昔～緑化の展望を拓く～』
○総会：15 時 20 分～16 時 40 分
【総会後の懇親会のお知らせ】
○会場：博多名物 鉄なべ 本町店
○時間：17 時～19 時まで
○参加費：3,500 円（ソフトドリンクのみの人は 2,500 円）
○申込み：6 月 14 日（水）までに GEN まで。会員以外も参加できますのでお気軽にご参加ください。

大同で贈呈式がおこなわれました

大同における緑の地球ネットワークの重要な協力プロジェクト、南天門自然植物園（霊丘県上寨鎮、86ha）と実験林場カササギの森（大同県聚楽郷、約 600ha）を地元政府に委譲することになり、4 月 13 日午後、大同市の雲崗国際酒店で贈呈式が催されました。

南天門自然植物園は 1999 年 4 月に起工式をもち、18 年の歳月をかけ丹精込めて植物を育ててきました。地元スタッフによると、80 科余り 650 種の植物が育っており、中国林業科学研究院の陳幸良副院長などによって非常に高く評価されました。

実験林場カササギの森は 2001 年に着工し、マツなどの針葉樹が中心ですが、

それ以外にナラ、シラカンバなどの広葉樹も試験的に植栽してきました。日本からは丹羽宇一郎大使、平山郁夫日中友好協会会長、4 人の公使など、中国側では程永華在日本中国大使、徐錫澄中華全国総工会副主席、許金平中日友好協会副会長などが訪れて、植樹に取り組みました。

どちらのプロジェクトも植栽は完了し、旺盛な生育ぶりをみせて、モデル林としての役割を果たしています。緑が濃くなった反面で、山火事の危険が増大し、私たち民間による管理には限界があり、地元政府の管理が不可欠となってきました。

贈呈式には大同市総工会の柴京雲副主席、2 つの郷鎮の党書記、郷長などと、日本側から高見邦雄副代表が出席し、議定書に署名しました。地元政府の管理のもとでよりよく発展させること、日本からの参観視察を歓迎することなどが約束されました。

贈呈式には関係者のほか、大同日報、大同電視台の取材がありました。

ご参加ください 予 告 東北海岸林 再生活動

東日本大震災発生から今年で 6 年。GEN は今年もゆりりん愛護会と協力し、津波被害を受けた海岸林再生のための植樹ツアーをおこないます。

岩沼市寺島で植樹祭に参加するほか、被災地見学をおこないます。今回は学生時代に数回にわたって大同を訪問し、その後仙台市市民サポートセンターの立ち上げに関わり、現在「まちかど公共研究所」を主催している工藤寛之さんに被災地を案内していただきます。この機会に東北の今を見に行きませんか。

- 日程：9 月 16 日（土）昼ごろ～17 日（日）16 時ごろ。仙台空港集合、解散
○費用：12,000 円程度（ホテル代、レンタカー代含む。昼食、夕食代は含まない）費用は参加人数によって変動します。
○定員：10 名

○内容：植樹祭への参加、被災地見学
詳細は次号でご案内しますが、参加をご希望の方は至急に GEN 事務所に連絡してください。参加の可否をお知らせしますので、そのうえで仙台までの交通手段を確保してください。

報告 実りの秋が楽しみ、郷の棚田

宮本 敏幸（GEN 会員）

4 月 1 日（土）、GEN 自然と親しむ会「泉佐野丘陵緑地で郷の棚田活動 懐かしい作物や花などを植えて楽しむ」をおこない、7 名が参加しました。昨年に引き続き 2 回目の開催です。棚田での植え付け作業と自然観察を楽しみました。

3 月は 20 度を超える日がなかった大阪の寒い春。4 月 1 日も 13 度くらい。快晴とはいかないが、暑くもなく、さして寒くもなく。

阪和道と関西国際空港道の交差の南側に泉佐野丘陵緑地はあり、計画面積 75ha の広大な敷地の中の三分の一くらいが整備され、その中の棚田エリアの一区画を GEN は借りている。

今回は事務所の河本ファミリーの、どすこい（巨漢）ババゴンと 1 歳 4 か月の蒼一郎くんも小さなショベル持参で参加してくれた。

昨春、金針菜、オシロイバナ、タチアオイなどを植えたが、今は二畝の金針菜が芽吹いて春を告げている。ここに油カス肥料を入れた。そして、粟、

コーリャン、キビなど、国内ではあまり見られなくなった穀物の種をまいた。秋が楽しみである。

さらに、うどの株とあさつき少々も植えた。うどは、シーボルトの「日本植物誌」にも登場するウコギ科タラノキ属の多年草の山菜。ということは美味しそう、食べたいがついて回りそう。少し交通の便が悪いが、チョイチョイ見に行かなければいけないようだ。

お昼ごはんのあと、園内を散策したが、山桜はちらほらで、タケ



棚田での作業を終えたあと、記念撮影

報告 植木のまち宝塚市山本を歩く

川島 和義（GEN 会員）

4 月 22 日（土）、GEN 自然と親しむ会「前中代表と歩く野の道」シリーズ第 1 回目の満願寺→最明寺滝→阪急山本を歩くがおこなわれました。汗ばむほどのお天気となり、13 名が参加して自然観察を楽しみました。

GEN の自然と親しむ会は、前中代表と歩く「野の道」シリーズを始めた。その第 1 回目は、神秀山満願寺から阪急山本駅へのコースだ。



満願寺でひっそり咲いていたギンリョウソウ

4 月 22 日阪急「雲雀丘花屋敷」駅の東改札駅に集まった総勢 13 名は、10 時 6 分発の愛宕原ゴルフ場行きバス（220 円）に乗り、満願寺まで行く。満願寺は、川西市の飛び地にあり、その周囲は宝塚市だとのことである。多田源氏にゆかりの寺で、金太郎（坂田金時）の墓がある。入山料が 100 円とのことだが、無人の集金箱が置いてあるだけだった。

境内にはまだ咲いている桜（ヤエベニシダレ）が見られた。リキュウバイがあり、バイという名称だが、ウメとは別種だ

と前中代表から説明があった。ダイオウショウやサルスベリ、コジイの発達した板根などが見られた。

ここで河本さんがギンリョウソウを見つけた。腐生植物で、自らは光合成をせず「直接的にはベニタケ属菌類に寄生し、究極的にはベニタケ属菌類と共生する樹木が光合成により作り出している有機物を、菌経由で得て生活している」と Wikipedia には書いてある。

一度バス停の方に戻り、最明寺滝（さいみょうじたき）に向かう。始めは、住宅内の道だったが、しばらく行くと「野の道」になった。滝を眺めてまた少し戻り、井植山荘への私有地内の道を歩いて、途中の森の中で弁当を広げた。宝教寺の前を通過して山本駅で解散だったが、みなが駅近くの「あいあいパーク」で植木を見て、14 時すぎに帰路に着いた。

途中で代表からいろんな植物、花の説明を受けたが、私の記憶も記録も不完全である。何度も参加して、繰り返し聴くのが良いのだと思う。



2017 年春 張家口市蔚県で第 1 回目の植樹活動

2017 年 4 月は上田信さん（4/4～4/10）、黄土高原スタディツアー（4/8～4/13、26 名）が張家口市蔚県を訪問しました。今号は写真でツアーのようすをご紹介します。



ツアー初日は北京空港で通訳さんと合流し、バスで蔚県へ移動しました。①、②ツアー 2 日目、明清代の建築が残る暖泉鎮古堡を見学。③3 日目、柏樹郷永寧寨村で記念すべき第 1 回目の植樹。苗を担いで丘陵地にアブラマツを植える。④地元のテレビ局の取材が来て参加者もインタビューを受けました。⑤、⑥柏樹郷中心小学を訪問し、子供たちと交流。1 対 1 で子供が描いた絵に色を塗ったり、歌をうたったり。言葉が通じなくても楽しく交流できました。子供たちは元気いっぱい。



⑦子供たちといっしょに色を塗った絵を手に記念撮影。

⑧村でのお昼ごはん。大同もおいしいけれど蔚県のごはんも参加者になかなか好評です。

⑨中国の伝統工芸の切り絵が有名な蔚県。1 枚の紙を刀で切り抜きます。ツアー 4 日目には工房を見学し、参加者も切り抜き作業を体験。なかなか難しい！

5 日目の午後にバスで北京へ戻り、翌日午前中にスーパーで買い物をしたあと、午後の便で日本へ無事帰国しました。

参加者募集

2017 黄土高原スタディツアー

日中国交正常化 45 周年の今年、GEN の新しい協力地、張家口市蔚県へ木を植えに行きませんか？ 今回は山西省大同市も訪れます。

○日程：8月26日（土）～9月1日（金）6泊7日

○訪問地：中国河北省張家口市蔚県、山西省大同市（北京経由）

○定員：30 名程度

○最少催行人員：12 名

○旅行代金：178,000 円（学生割引 20,000 円）※中国国際航空（CA）、深圳航空（CZ）利用。※国際航空運賃、

燃油特別付加運賃、空港使用料、航空保険料、中国国内での交通費・食費・宿泊費を含みます。※関西国際空港発着。東京発着便利用ご希望の方、北京合流希望の方はご相談ください。※旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含みません。※ GEN 年会費（一般 12,000 円、学生 3,000 円）を別途お支払いください。

○添乗員：同行しません。GEN スタッフが関西国際空港から同行します。

○申込み：資料請求は GEN まで氏名、

郵便番号、住所をお知らせください。（株）マイチケットより案内を送付します。お気軽にお問い合わせください。



大同緑化協力 25 年の軌跡 カウンターパートの奮闘に感謝

GEN の山西省大同市での 25 年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で 2 回目です。（高見邦雄）

大同での緑化事業が成果をあげることができたのは、カウンターパートに恵まれたからです。でも、1992 年のスタート時はたいへんでした。最初は共產主義青年団（共青团）雁北地区委員会でしたが、そのころの大同市は城区、砒区、南郊区、新栄区の 4 区で、周囲の農村県は雁北地区というべつの行政単位に属していました。いまの大同市になったのは 1993 年 7 月です。

共青团は党と政府の登竜門で、優秀な人材が多いのですが、その反面、人事異動が頻繁なのが困りもの。大同市と雁北地区の大合併があったため、この時期はとりわけ激しかったのです。数か月をおいて訪れると、見知った顔がないことさえありました。

緑化はとくに息の長い事業です。これでは継続できません。専門の組織をつくり、人事を動かさないでほしい、と私は求めました。その結果、生まれたのが緑色地球ネットワーク大同事務所、大同市政府はここに 2 人の公務員を配置し、正式の法人にしてくれました。2002 年にカウンターパートが大同市総工会に転じたときも、大同事務所のメンバーはそのままでした。

2 代目所長の武春珍さんはすでに 19.5



武春珍所長と王萍さん。成長したマツと一緒に。

年、副所長の魏生学さんは 23.5 年、ボランティア通訳の王萍さんが 22.5 年になります。運転手の郭宝青さんが 16.3 年、最年少の李海静さんが 15.5 年です。

みなさん、ほんとによくやってくれます。たとえば郭さん。以前の大同市は道路が悪く、しょっちゅう工事中で、大同から霊丘にむかうため朝早く出発し、工事現場を避けて迂回するうちに、「首都歓迎您！」の看板を見つけ、「えっ、北京だ！」とあって驚いたことがあります。霊丘まで行き着けず、河北省の涑源に着いたら日付が変わっていました。

私たちが用のあるのは山ですから、道が悪いのはふつうで、谷底を走ることもよくありました。渋滞に巻き込まれて何時間も立ち往生したことも一度や二度ではありません。そんなとき

でも、彼はいやそうな顔を一度だって見せたことはありません。

以前乗っていたオデッセーは会員が寄付してくださったものです。ホンダの田中さんが北京からきたとき、走行距離が 30 万 km を超えているのに、内も外もピカピカ！「こんなふうに乗ってもらうと、つくる立場としてはうれしいですよ。これをみるだけでモチベーションの高さがわかります」ということでした。（影の声「売の立場としては困りますねえ！」）。そのくるまは最終的に 50 万 km 近く走りました。

武春珍所長は木を植えて育てることをよく子育てに例えました。いい関係をつくることができたから、樹木もちゃんと育ったのだと思います。



大同のカウンターパート

参加者
募集

GEN 自然と親しむ会

前中代表と歩く
「野の道」シリーズ

誰でも気軽に参加できるよう、歩きやすく平坦な道を中心に最大 5km ほどを歩きながら自然観察を楽しむ会を企画しました。

シリーズ①は終了しましたが、②と③の参加者を募集しています。3 回すべてにご参加いただいた方には河北省蔚県の切り絵をプレゼントします。ぜひご参加ください。

② 5 月 27 日大阪府営錦織公園（富田林市錦織）を歩く 10 時に南海電鉄「滝谷」駅集合。徒歩で錦織公園へ丘陵の地形を残した錦織公園で初夏の自然観察を楽しみます。

③ 国営あいな里山公園を歩く（神戸市

北区藍那）10 時に神戸電鉄粟生線「藍那」駅集合。徒歩であいな里山公園へ。里山の風景を楽しむほか、園内で簡単な作業に参加します。

○時間：10 時～14 時ごろ

○参加費：500 円（保険料を含む）

○持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、帽子、あれば植物図鑑

○申込み：GEN 事務所まで氏名、生年月日、連絡先をご連絡ください。GEN のホームページからお申し込みできます。詳細は GEN ホームページのイベント情報をご覧ください。
<http://gen-tree.org/event/index.html>

黄土高原史話 <83>

象徴としての永寧寺（中）

何度も引用した『洛陽伽藍記』の「永寧寺」の項にいう。

「〔孝莊帝の〕建義元年（528）、太原王の爾朱榮が軍隊をこの寺に集結した。」

この記述にもとづいて、前回、「爾朱榮の軍は、都に進撃して、宮殿に近い永寧寺に陣を張る。かくして永寧寺は、争乱の中心的舞台となるわけだ」と述べたが、こうやってしまうと、少しく誤解をまねく恐れあり。

爾朱榮の起こした乱は、史上「河陰の変」とよばれるごとく、洛陽の北 50 キロを東流する黄河の南が惨劇の舞台。ここがいわゆる河陰の野で、河陰とは河の南側という意味だ。

前回も記したように、永寧寺は第 7 代宣武帝（499～515 年在位）の妃にして、第 8 代孝明帝（515～528 年在位）の母たる霊太后胡氏が 516 年に建てたもの。

彼女は名家の出にして、聰明かつ才芸も豊か。その姑（父方か母方の姉妹）が尼になっていた感化で、深く仏教に帰依した。ところが、宣武帝の死後、5 歳の孝明帝の摂政となって大権をにぎるや、近臣や宦官を寵愛して綱紀を乱し、寺塔の建立や贅沢で国費を濫用。520 年、ある皇族と宦官が共謀して霊太后を幽閉するが、6 年後、ふたたび摂政の座についた（したたか！）。

谷口 義介（GEN 会員）

しかし、成人した孝明帝は太后の不品行・スキャンダルをにくみ、乱脈をきわめた宮廷政治の刷新をはかって、その手助けを外部に求めた。そこで登場するのが、北地の秀谷に勢力を張っていた爾朱榮にほかならぬ。その地は今の山西省朔州市の北西というから、わが大同と比較的近い。

爾朱榮は契胡とよばれる種族の族長で、8,000 余りの部落を有し、家には数万頭の馬がいて、北魏王室とも関係をもち、陰然たる勢力を保持していた。

528 年 2 月、太后が 19 歳の実子孝明帝を毒殺し、第 6 代孝文帝の曾孫にあたる 3 歳の元釗を立てると、爾朱榮は孝文帝の孫の長楽王（のちの孝莊帝）をかつぎ上げて、洛陽にむけ進撃。

この報に接した太后だが、胡氏一族の専権がにくまれて、皇族・高官に人気がない。わずかに二人の将軍が 5,000 の兵をひきいて都を出、黄河にかかる「河橋」の守りを固めた。河橋は今の河南省孟県の南にあった渡河地点で、北へ黄河を渡るための棧橋が以前から設けられている。

同年 4 月 11 日、南下してきた爾朱榮は、黄河の北側に布陣。かねて連絡をとっていた長楽王が河を北に渡って投ずると、それを知った太后側の将軍はあっさり兵を解いて降伏した。

4 月 12 日、爾朱榮は黄河を渡って河



陰の野に陣を張る。

同 13 日、都の百官に通達して新帝に拝謁するように命令し、やってきた王公・大臣・朝臣ら 2,000 余人を虐殺した。では、太后はどうなったか。

『魏書』巻 13「皇后列伝」の宣武霊皇后胡氏の項にいう。

「武泰元年（528）に及び、爾朱榮、兵を称げて河を渡る。太后、尽く肅宗（孝明帝）の六宮（皇妃たち）を召して皆入道（出家）せしめ、太后も亦た自ら落髪す。榮、騎を遣して太后及び幼主（釗）を河陰に拘送せしむ。太后、榮に対し陳説（弁明）する所多きも、榮、衣を払って（憤然として）起つ。太后及び幼主、並に河に沈めらる。」

つまり、太后は剃髪して出家の意向を示したが、その甲斐なく、幼主ともども黄河に投げ込まれた、というわけだ。

同 14 日、新帝は洛陽に入城し、天下に大赦を行なって、元号を武泰から建義に改めた。これが孝莊帝（528～530 年在位）である。

同 20 日、帝は詔を下して人心の安定をはかった。また、榮の娘を皇后に立てた。

最大の實力者・爾朱榮が永寧寺に軍団を入れて睨みを利かせたのは、おそらくこの段階でのことだろう。

いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）
一般会費 12,000 円
家族会費（同居の家族 2 人目から）6,000 円

学生会員 3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）1,000 円
団体会員 12,000 円
賛助会員 100,000 円

■会報を購読してください！

年間購読料 2,000 円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。使途自由のご寄付も受け付けます。＊緑化基金の 20% は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。

【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

GEN は大阪市に認定された認定

NPO 法人です（期限は 2019 年 4 月 8 日まで）。個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。また、大阪府民、大阪市民のかたは大阪府と大阪市の個人住民税控除を受けることができます。くわしくは GEN まで。

情報ひろば
いっしょなかたち

万博記念公園
みんなで自然調べ隊！

万博記念公園の自然・生きものについて講師に学びながら数・種類を調べてその記録を良好な自然環境づくりにいかしています。1回のみ参加も可能です。

○日程：5月20日「野鳥」／6月17日「水辺の生きもの」／7月22日「チョウ・トンボ」／10月14日「キノコ」／11月25日「どんぐり・紅葉」／1月13日「冬の野鳥①」／2月24日「冬の野鳥②」

○時間：10時～12時30分ごろ※雨天決行

○場所：万博記念公園内自然文化園・日本庭園（吹田市千里万博公園1-1）

○交通：大阪モノレール「万博記念公園駅」より徒歩6分

○定員：各20名（先着順）

○参加費：各回大人300円・中学生以下100円

○問合せ・申込み：はがき、ファクス、

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

e-mail、電話にて氏名・性別・年齢・住所・電話番号を下記までご連絡ください。公益社団法人 大阪自然環境保全協会（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: office@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp）

○問合せ：エコライフ・フェア2017 運営事務局 e-mail: ecolife2017@toiawase.info tel.03-5418-5062 fax.03-5444-6922

小夏とたまねぎの
ご案内

今年も小夏とたまねぎはいかがですか。

◎土佐小夏

A 5kg 4,200円

B 3kg 2,600円

C 家庭用5kg 3,000円

◎おいしい玉葱（低農薬、有機肥料）

白たまねぎ 5kg 2,000円

※送料別途。関東860円 関西650円（20kgまで）

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 (tel./fax.0887-29-2500 e-mail tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)

エコライフ・フェア
2017

6月は環境月間です。環境省や企業、NGO等が連携して環境について考えるイベントを開催します。ワークショップやスタンプラリーなどさまざまなブースを用意しています。

○日時：6月3日（土）11時～17時、6月4日（日）10時～17時

○会場：都立代々木公園ケヤキ並木（NHKホール前）・イベント広場

○入場無料

○主催：環境省

○共催：渋谷区